

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2395700186		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム モドックガーデンピレッジ緒川 東館		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字緒川字栄39番地1		
自己評価作成日	平成26年10月14日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成26年11月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>外出やアクティビティが面白い企画が多い。                  自立支援、家事、掃除、洗濯と一緒にを行う。                  個々の入居者の把握がしっかりできるようにしている。                  おやつも作る事が多い。                  運動不足解消の為、毎日3回の体操、運動、階段歩行訓練を行い水素水を汲みにいきます。</p> <p>職員全員、笑顔が素敵です。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開所半年、デイサービスと託児所併設の施設である。週に何度か、託児所の子どもが訪れたり、デイサービスの催しに参加する等の交流がある。また、隣接の特別養護老人ホームとも、利用者同士の交流や職員の研修等、あらゆる面で連携がある。炭酸泉入浴、酸素ルーム導入、高濃度水素水の提供、また、希望者に対して学習療法や回想法等を実施し、さまざまなアクティビティや健康増進に取り組んでおり、理念に則り、入居者に多様な生活環境を提供している。担当制を導入し、情報を詳細にアセスメントし、定期的に職員一同で見直しを図っており、更にケアの統一化に、各入居者の手順書を作成したり、申し送りノートを開覧しやすく二部作成する等の工夫をしている。また、新たな外出の企画を現在計画中で、「その人らしい生活」を実現するためのホーム独自の取り組みを随所に確認することができた。近所の喫茶店へ定期的に通い、馴染みの場となるよう支援したり、毎年法人合同夏祭りへ、地域の人を招待する等して地域関係作りに努めており、地域防災協力の獲得に着手する等、その取り組みや、充実したサービスの提供に、今後の展開が楽しみな事業所である。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リネンの書かれた札を、職員全員、名札にしている。自立支援を目標にし生きがいを持ち続けて頂けるよう話をうる機会を設けています。	理念である、「個人の尊厳を支え、生きがいを持ち続けていただくよう環境作りに努めます」に則り、今までの生活歴や人格を尊重し、個別ケアを実践している。情報を詳細に明文化して職員間での情報共有を徹底し、また、ケアのばらつきがないよう手順書を作成している。様々な認知症療法を取り入れる等、環境作りにも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	東浦近郊のボランティアの方、町内の行事に参加したり買い物、食事処に外出している。	地域の情報は、町から発行される町報から得たり、コミュニティセンターへ電話をして確認する等しており、町内の盆踊りに参加したりしている。地域密着の意義を踏まえ、外出先に町の施設を利用している。近所の住人とは、水素水を提供し、お礼に野菜を戴くなどの交流がある。ボランティアに地域の人々が来て下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出先に、あらかじめ連絡し理解、協力を得ている。今後も、地域に向けた取組みを強化していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容をミーティングで話し合い、取り入れている。	入居者、家族代表、区長や民生委員、包括支援センター職員の構成員により、2か月に一回、開所してから計4回開催している。ホームからの報告と共に、地域の情報収集や、各構成員から意見や要望、助言等をいただいている。今までに、意見箱の設置や、防災訓練についての提案が出され、その後の取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	火災時における緒川区との協議をすすめて取りしている。	介護認定更新時や、事故報告時など必要に応じ、町の高齢福祉係と連携している。町役場へ行く際には、運営推進会議の議事録を持参している。また、包括支援センター主催の介護支援専門員の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内では、自由に過ごしていただき、過度な干渉を避け、ストレスの無い生活を送って頂けるよう配慮しています。玄関の施錠は、課題としています。	職員全員に、マニュアル等の資料を配布しており、法人の社内年間研修を受けて、意識を高めている。実際に現場でスピーチロック等、問題が見受けられれば個別に呼び注意している。身体拘束しないケアについて、ホーム内でも勉強会を実施しようと検討している。施錠は各ユニット出入口でナンバーロックしているが、外出希望の入居者には制止せず、付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルがあり、施設全体での取り組みとし、ご利用者様への言葉使いや対応には気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、納得した上で押印して頂いく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 ご利用者様と日常生活でコミュニケーションを図っている。 来訪時、ご家族様にKン協報告をしている。	全世帯が、担当者会議に出席しており、家族の、入居者やホームに対しての関心の高さが伺える。ある家族から、東西両ユニット間での交流会の要望があり、本人、家族、職員皆で準備に携わりバイキング形式の会食を催したことがある。家族の要望に応え、相互の交流関係が深まるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、カンファレンス、面談をし意見や提案を聞き反映させている。	月二回ユニットごとにミーティング、半年に一度個別面談を行っている。また「交換日記」ノートを使用して、職員間で自由に意見、提案の発信が出来る場を設けている。調整して研修へ参加させたり、施設への見学を許可する等、極力希望に応えている。また、職員の希望する勉強会を、職員で講師を務め当番制で開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見に対し、すぐに否定しないで良い方向へすすむよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的に学びたい事があれば、個別に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方がオープン時、研修を行って下さったり、施設交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を決め、ご本人様の意向の把握に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様へ項目別に何を希望されているかを伺っている。 ご利用者様の事だけではなく基本的な挨拶にも取り組んでいる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	月1～2回ミーティング、カンファレンスを行い職員全員でご利用者様の情報や変化を周知している。 月1回モニタリングをしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お声かけや挨拶をし、ご利用者様の自尊心に配慮している。 ご利用者様本位になるよう心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際、挨拶、お茶の提供、近況報告を実施し、関係作りを図っている。 外出やボランティアがみえる日等、お誘いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が来所された場合、お部屋や共有スペースで歓談して頂く。 昔の日課に近づけるよう、馴染みのお店を業務に取り入れている。(取組中の為、全員ではない)	来所の友人から新しい情報を得ることがある。手紙をきっかけに、交流が復活した例があり、関係継続を支援している。喫茶店やエステ等への個別外出はプランに組み込んでいる。新しい馴染みの場となるよう、近所の喫茶店通いに取り組んでいる。簡易ベッドを備えており、来訪者の泊まりや食事の希望に応えられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備等でご利用者様同士で会話、協力して頂けるよう考慮している。 外出の際、全員で出かける。 会話の仲介を職員が行う。(難聴の方)			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された方に関しては、定期的に会いに行かさせていただき、ご家族様とも挨拶をしている。 最近の方に関しては、まだ、何も行ってない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24Hシートに好きな事や昔の情報を交え、意向の理解に努めている。	24Hシートは月一度のケアカンファレンス時に、現状に即しているよう更新している。担当制であり、職員は担当家族と情報交換を行う等して、入居者の把握に努めている。飲酒の希望には、体調を考慮して、イベント時等での提供で応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	24Hシートや生活歴の確認をしている。 ご家族様の来訪時に入居前までの様子を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、職員間での高等のやり取りで情報交換を行っている。 PC上の記録などで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を主とし、カンファレンスで意見交換を行い、月に一度モニタリングをしている。	月に一度のケアカンファレンス時に、居室担当者を中心に、モニタリングと、必要あれば介護計画の見直しを行っている。その際には、入居者ごとに詳細に記録している情報の更新も含め、職員間で活発に意見を出し合って討議している。家族からは、面会等の際に希望を聴き取り、医師や看護師へも意見を求め、プランに反映させている。原案作成後に担当者会議開催、説明を行い、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録を把握する。 ミーティングやカンファレンスで情報の周知とケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後、サービスの多様化も図れるよう視野にしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなども活用し、取り組みの強化を図りたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者が通いなれた病院で定期的を受診されている。 受診の際、担当医宛に日常生活の様子や変化を示した要約をお渡しし連絡をとっている。	月三回の協力医の往診や、かかりつけ医への通院等、入居者の希望に応じた受診をしている。通院に家族同行が困難な場合は、職員が支援している。個人往診や訪問看護など医療職の来所機会が多くあり、指導や助言を日常的に得ている。薬用ロッカーの保管方法に工夫し、誤薬防止に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所前日に様子や相談を書いた用紙をFAXしている。当日にアドバイスを頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医の方から情報提供表、GHからも生活面の情報提供表を送らせて頂いている。 伺い、情報の共有をさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明は行っているが現実的には、まだである。	入居時に、重度化した場合における対応の指針を本人や家族へ説明し、同意を得ている。また、必要に応じてその都度、希望を聴き取って対応する姿勢がある。退去希望の場合には、他施設の情報提供など相談にのっている。法人内では、新人教育プログラムや、全職員への社内研修を実施しており、看取りをテーマに、考え方を深め、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、救命講習を受けている。 医療連携マニュアルや事故防止。 事故対応マニュアルが目の届くところに設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開所して一度避難訓練を行っている。 職員は災害時の避難訓練経路を指導されている。 災害時対応マニュアルが設置してある。	入居者も参加し、夜間を想定した火災訓練を行っている。地域の人にも参加を募りたいと考えており、ピラ配り等を検討している。避難場所の自施設への指定を、現在、町へ申請している。AEDが設置されており、職員は、救命救急研修を受けている。災害時用の備蓄は、隣接の同法人施設で用意している。	ホーム独自の備蓄の整備が望まれる。災害等の緊急事態時には、想定外の事象も起こり得るため、同建物内での備蓄に取り組むよう検討されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語、苗字呼び、さん付けの徹底。 月間目標としてあげられている。	理念に掲げる「入居者の尊厳」を重視しており、月間目標として挙げている。共用部に標語も掲示している。月間目標は、毎月ユニットごとで相談して決めており、職員への勤務表にも明記し、セルフチェック表を用いて、各自の意識を高めている。実際現場で、入居者へ敬語で言葉かけをしている姿が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定できるようお声掛けや雰囲気作りを目指し努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティや食事等を含め、自由に過ごして頂き角の鑑賞をしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を聞き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご利用者様と一緒に作り、準備や配膳、下膳も行って頂いている。 季節の食べ物やご家族様から頂いた野菜等を受かったメニューも取り入れている。	卓上電磁調理器を共用部に配置して、安全に参加しやすい調理の環境を整備している。調理をしない人には味を見てもらうなど、極力全員が関わられるよう配慮している。 イベント時に、写真付きの注文冊子を入居者と共に選んで、好みの食事を提供している。少人数時や行事時に、居酒屋等の外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1200ml以上水分を提供している。 タイヘイによりバランスはよい。状態に合わせて、調理も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着(リハビリパンツ、パット)の見直しや、活動前のトイレ案内等を行っている。	個々に合わせ、その人に必要な支援をしている。状態を観察し、方法を検討し試み、実際にリハビリパンツから布の下着へ戻った例がある。各入居者ごとに作成した手順書を大筋にして、職員間で統一を図り、取り組んでいる。排便の有無に配慮し、水分摂取量に注意したり、スムージーの提供をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や排便パターン、便器等の確認をおこなっている。 野菜やバナナ等のスムージーの提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に一度は炭酸泉の温泉に浸かったりしている。 曜日は固定しているが、ご本人様の体調や気分に合わせて、日は変更できるようにしている。	3日に一度の入浴と、この他に週に一度、炭酸泉に入っている。炭酸泉は、皆で入浴するため、入居者同士の和気あいあいとした交流の場であり、気分転換の場ともなっている。炭酸泉の他に、季節により、自作のバラやハイビスカス等を浮かべたり、毎回の足マット交換、エアコン設置、量の脱衣台等、感染に配慮しながら快適な入浴環境を提供している。入浴後は水素水で水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう希望者には鍵をかけて頂いている。 シーツ交換や布団干し等清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿い、提供している。 薬表をチェックし副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとのイベントうい各種で行い、散歩や編み物等を毎日行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域への外出は行っているが、本人様希望に沿った外出は十分ではない為、今後取り組む。	週に一度は、喫茶店へ出かけている。車で出ることが多いが、店より離れた位置に駐車して歩く等、入居者の状況に合った外出が出来るよう配慮している。現在、入居者の希望するセントレアへの外出を、他希望者と共に出かける計画や、買い物好きな入居者のために、名古屋市まで電車で行ける話が持ち上がっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に財布を持って頂き外出時は支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時対応している。 年賀状の作成を取り組み中。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる小物や、お花を絶えず行っている。	共用部は、窓からの自然な採光に明るく照らされている。見通し良く作業出来る対面式キッチンであり、調理時にはダイニング部も活用する等工夫が見られる。テレビの視聴は、入居者の馴染みや生活習慣を考慮しており、設置位置にも気を配っている。居室をつなぐ通路には、畳コーナーやベンチ椅子が点在し、移動中の休憩や、共用部以外での寛ぎに利用出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座敷やお部屋の5m感覚で腰かけがあり、またソファも設置されている。 共有スペースとお部屋が離れておりプライベート空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの家具をお持ち頂いている。	全室、トイレと洗面所が備え付けられ、プライバシーが確保されている。壁に、各居室ごとに配色をして、自室の認識を高めてもらえるよう工夫している。運動記録表を壁に貼付し、毎日の運動の実施有無等を記録して自身で健康管理している人、馴染みの化粧台を持ち込んで使用している人等、その人らしく生活されている様子が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室トイレ、洗面所がついており洗面の高さは72cmと車椅子の方でも安心できる。 ドアは全て引き戸で開けやすく、すぐには閉じないようになっている。		

## 目標達成計画

作成日: 平成27年 1月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策について 災害時用の備蓄は、隣接の同法人施設で用意しているが、災害等の緊急事態に想定外の事象が起こっても、ガーデンビレッジ内でも必要物品の備蓄していたほうが良いと思われる。	災害等の緊急事態に想定外の事象が起こっても、可能な限り対応出来るように、ガーデンビレッジ内で必要物品の備蓄出来るようにしていく。	災害等緊急時にはメドック東浦、ガーデンビレッジが連携して対応出来るようにする必要がある為、共通の委員会(安全対策委員会)を通じ、問題提起を行う。許可が得られ次第、計画的に準備をしていく。1月中に完了予定。	1ヶ月
2	13	○職員を育てる取り組みについて 職員によって、知識、観察力等技量の差が大きい。1人1人が目的を持って業務に取り組むスキルアップ出来る環境が必要。	職員が目標を持ち、継続的にスキルアップ出来るようなシステムを構築する。	キャリアファイルの活用。新人トレーニングノートの活用。新人職員独立立ちスケジュールの作成、周知。グループホーム勉強会の定期開催。外部施設の見学、外部研修参加。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。